

コンクリート工学年次大会 2004（高知）の概況

実行委員会委員長 中田 慎介

JCI2004 高知大会は「コンクリート維新」というキャッチフレーズのもとに、7月7日から9日までの3日間、JCI大会としては初めて高知で開催することができた。

本大会は、研究発表における活発な討議の場およびコンクリート関連の最新・最先端技術を紹介するコンクリートテクノプラザを提供する旨を JCI ホームページに掲載し、大会への参加をお誘いしたところ、高知という地理条件にもかかわらず、例年と同様に多くの研究発表と、コンクリートテクノプラザへの参加を得た。

開会式では、実行委員長の本大会参加者に対する歓迎と開会宣言に引き続き、長瀧重義会長のご挨拶と山本泰彦副会長の JCI 活動報告があった後、コンクリートテクノプラザの会場で、橋本親典部会長の開会挨拶など、一連のオープニングセレモニーが行われた。

本大会の主行事である「第26回コンクリート工学講演会」は10会場で3日間にわたって開催され、例年と変わらぬ数の講演と活発な討論が行われた。

「コンクリートテクノプラザ2004」では80ブースすべてを使い、最新・最先端の技術が展示され、3日間で延べ9,454名の入場者が、またこれと隣接した会場で催された技術紹介セッションには3日間で43社の技術紹介と約1,300名の参加者があった。

「第11回生コンセミナー」は「環境・品質・元気」をテーマに初日の午後に開催され、メイン会場のホールで400名以上の参加者を迎え講演が行われた。

大会2日目には「JCI-KCI ジョイントセミナー」が開催され、日韓100名近くの参加者があり熱心な討論が行なわれた。

「見学会」は3コースを準備し、ほぼ定員の方々のご参加を頂いた。

大会2日目に催された「特別講演」にはACI会長のDr.Anthony Fiorato による、最近のACIの動向および今後の活動について切れ味の鋭いプレゼンテーションがなされた。続いて「招待講演」として、中国清華大学 安雪暉教授により、中国のコンクリート産業の実情について具体的な数字を交えた講演がなされた。これらの講演により日本のコンクリート産業も相当元気付くのではないかという印象を持った。

本大会では、「懇親会」は2日目に行われたが、350名以上の参加者があり、最大の会場を用意したにもかかわらず、会場が狭かった感もあるほど盛況であった。

「閉会式」では実行委員長の挨拶と六郷恵哲年次論文査読委員会委員長による論文の講評があり、引き続いて年次論文奨励賞授与者63名が菅野俊介講演部会長から発表され、実行委員長から受賞者に賞状と高知特産の珊瑚の記念品が授与された。「次期大会への引継ぎ式」では、谷川恭雄次期大会(名古屋)実行委員長から次期大会への招待のご挨拶があった。

本大会は、その期間中、梅雨時期であるにもかかわらず我々は台風の心配もしたが、暑かったという以外におおむね天候にも恵まれ、トラブルもなく初期の目的を達成して終了することができました。これもひとえに講演者と討論に参加された方々、コンクリートテクノプラザへの出展者、生コンセミナーへの参加者をはじめ、大会の諸行事にご協力を頂いた皆様方のお蔭であります。また、今回はJCI中国四国支部担当ということで、本大

会を成功裡のうちに終了できましたことは、地理的にはまことに遠い山口、広島、島根、鳥取、岡山の各県からの実行委員会各位、四国 4 県からの実行委員会各位、各分科会各位の献身的な作業とすばらしいチームワークの賜物であり、ここにこれを付記して、関係各位に心からの感謝の意を表し本大会の概況報告とします。